

第4章 共通工

4-1	法枠工	
(1)	プレキャスト法枠工	4-1
(2)	現場吹付法枠工	4-2
4-2	吹付工	4-5
4-3	植生工	4-6
4-4	コンクリート矢板工	4-7
4-5	コンクリートブロック積(張)工	4-8
4-6	擁壁工	
(1)	プレキャスト擁壁工	4-12
(2)	補強土壁工	4-13
4-7	構造物とりこわし工	
(1)	構造物とりこわし工	4-19
(2)	骨材再生工	4-20
4-8	ネットフェンス設置・撤去工	
(1)	ネットフェンス設置工	4-21
(2)	ネットフェンス撤去工	4-23
4-9	かご工	4-24
4-10	アンカー工	4-25

第4章 共 通 工

4-1 法 枠 工

(1) プレキャスト法枠工

プレキャストブロックによる法枠工に適用する。

1) 数量算出項目

プレキャストブロック、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

表4-1 数量算出項目区分一覧表

区 分		中 詰 種 類	規 格	単 位	数 量	備 考
プレキャストブロック		○	○	m ²		中詰面積を含めた面積とする
敷砂利		○	○	m ³		必要な場合算出
中 詰	中 詰 フ ` ロック	×	○	m ²		法枠面積を含めた面積とする
	客 土	×	○	m ³		
	中 詰 張 コンクリート	×	○	m ³		
	中 詰 張 芝	×	○	m ²		
	植 生 土 の う	×	○	袋		
	割 石 又 は 栗 石	×	○	m ³		
砕 石	×	○	m ³			

- (注) 1. プレキャストブロックについては、アンカー及び吸出防止材の有無に区分し算出する。
 2. プレキャストブロック及び中詰ブロックについては、1 m²当りプレキャストブロック
 使用量(個)も算出する。
 3. 中詰ブロックについては、段数(1~2段 or 2段を超える)ごとに区分し算出する。
 4. 足場工が必要な場合は別途算出する。
 5. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

2) 数量算出方法

数量の算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか下記の方法によるものとする。

①プレキャスト法枠

プレキャスト法枠の数量は、中詰面積を含めた面積を算出する。
 プレキャスト法枠の材料は、種類に応じて使用量(個)を算出する。

②中詰ブロック

中詰ブロックの数量は、中詰ブロックの使用量(法枠面積100m²当り)及び法枠面積を含めた全体面積を算出する。

(2) 現場吹付法枠工

金網メッシュ、プラスチック、段ボール等の自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を用い鉄筋を含む吹付枠工に適用する。

1) 数量算出項目

吹付枠、ラス張、水切モルタル・コンクリート、表面コテ仕上げ、枠内吹付等の数量を区分毎に算出する。

表4-2 数量算出項目区分一覧表

項目		区分	規格	法面の垂直高	単位	数量	備考
吹付枠			○	○	m		目地が必要な場合は別途算出する。
ラス張			×	×	m ²		必要に応じて計上する。 全面積対象
水切モルタル・コンクリート			×	×	m ³		必要に応じて計上する。
表面コテ仕上げ			×	×	m ²		〃
枠内吹付	モルタル		○	○	m ²		〃
	コンクリート		○	○	m ²		〃
	植生基材		○	○	m ²		〃

(注) グランドアンカーは、「第16章仮設工 16-14 アンカー工」、ロックボルトは、「第16章仮設工 16-15 鉄筋挿入工 (ロックボルト工)」により必要に応じて別途算出すること。

①吹付枠の規格による区分

吹付枠の規格による区分は、下表のとおりとする。

		区分		
吹付法枠	コンクリート ・ モルタル	梁断面	150×150	枠材固定に使用する主アンカー (アンカーバー) 及び、補助アンカー (アンカーピン) の長さ (m) アンカー長は、1 m以内と1 mを超えるものに区分して算出する。
			200×200	
			300×300	
			400×400	
			500×500	
			600×600	

②法面の垂直高等による区分

法面の垂直高等による区分は、下表のとおりとする。

項目	法面の垂直高等による区分
吹付枠	垂直高さが4.5 m以下かつ吹付ホース延長100 m以下の部分の法枠長
	垂直高さが4.5 mを超える部分または吹付ホース延長100 mを超える部分の法枠長

2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか下記の方法によるものとする。

①吹付枠

吹付枠の数量は、コンクリート吹付及びモルタル吹付のそれぞれの施工延長を算出する。

②ラス張

ラス張の数量は、全面積を対象とし、必要に応じ算出する。

③水切モルタル・コンクリート

水切モルタル・コンクリートの数量は、必要に応じ体積を算出する。

④表面コテ仕上げ

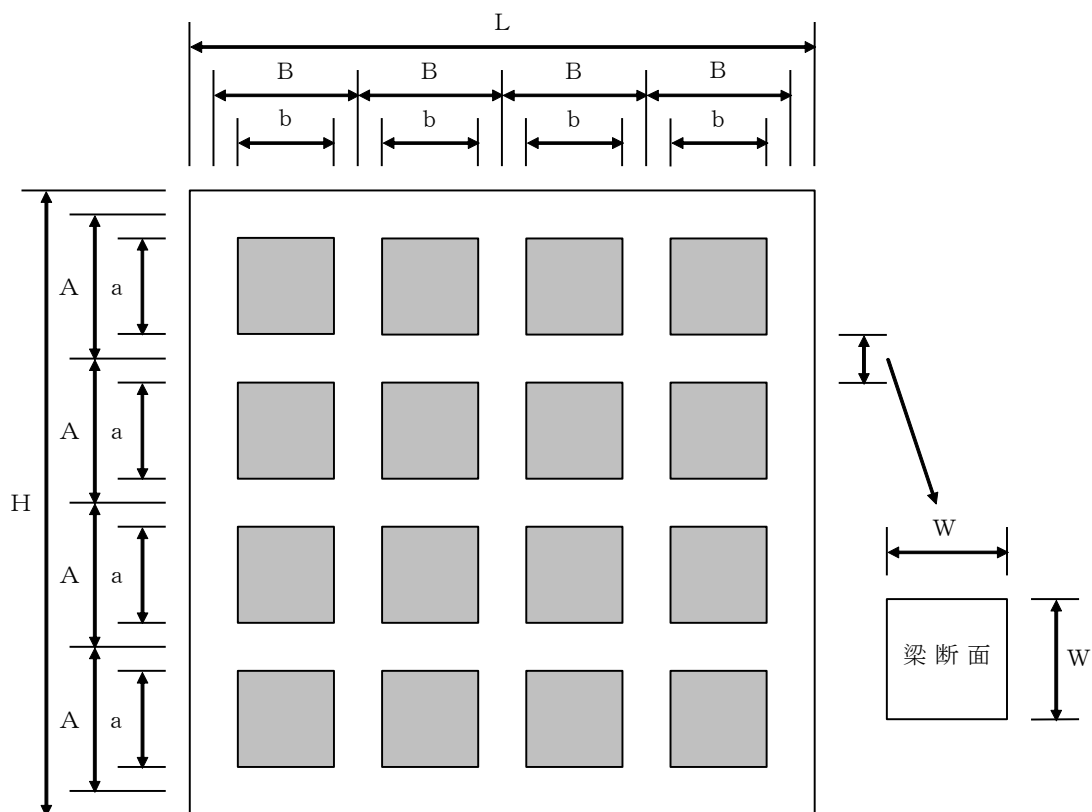
表面コテ仕上げの数量は、必要に応じ面積を算出する。

⑤枠内吹付

枠内吹付の数量は、4-2吹付工、4-3植生工により必要量を算出する。

(設計量算出例)

法枠長を計上する際の梁の延長は、下記を基本とする。



計算方法

$$\text{縦枠} : H \times \{(L - W) \div B + 1\}$$

$$\text{横枠} : b \times \{(L - W) \div B\} \times \{(H - W) \div A + 1\}$$

4-2 吹付工

モルタル吹付、コンクリート吹付工に適用する。

1) 数量算出項目

モルタル吹付、コンクリート吹付の面積を区分ごとに算出する。

表4-3 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	吹付厚さ	垂直高	単位	数量	備考
モルタル吹付	○	○	m ²		金網有無
コンクリート吹付	○	○	m ²		金網有無

- (注) 1. モルタル吹付、コンクリート吹付の補強鉄筋 (kg/m²) が必要な場合は別途算出する。
また、金網 (m²) は、菱形金網と溶接金網で区分して算出する。
2. 通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。

①吹付厚さ区分

吹付厚さ (cm) ごとに区分して算出する。

②垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

垂直高区分
4.5 m以下
4.5 mを超える

(注) 垂直高は、施工基面 (機械設置面) からの高さとする。

4-3 植 生 工

植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、芝付工、人工芝付工、野芝種子吹付工、繊維ネット工に適用する。

1) 数量算出項目

植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、芝付、人工芝付、野芝種子吹付、繊維ネットの面積を区分ごとに算出する。

表4-4 数量算出項目区分一覧表

区 分 項 目	吹付厚さ	種子配合	垂直高	単位	数量	備 考
植生基材吹付	○	○	○	m ²		(注) 1
客 土 吹 付	○	○	○	m ²		
種 子 散 布	×	○	○	m ²		
植 生 マ ッ ト	×	○	×	m ²		
植 生 シ ー ト	×	○	×	m ²		(注) 2
植 生 筋	×	×	×	m ²		(注) 3
筋 芝	×	×	×	m ²		(注) 3
芝 付	×	×	×	m ²		(注) 3, 4
人 工 芝 付	×	×	×	m ²		
野芝種子吹付	×	×	×	m ²		(注) 5
繊維ネット	×	×	×	m ²		(注) 6

- (注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。
2. 植生シートについては、標準品と特殊品（分解〔腐食〕型及び循環型〔間伐材等使用〕）に区分して算出する。
3. 植生筋、筋芝、芝付は、芝の総面積ではなく、対象となる法面の面積を算出する。
4. 芝付については平面部、法面部に区分せず合計を算出する。
5. 被覆シート張工が必要な場合は、別途算出する。
6. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。

①垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

項 目	法面垂直高による区分		
植生基材吹付	①4.5m以下	②4.5mを超え8.0m以下	③8.0mを超える
客 土 吹 付	①2.5m以下	②2.5mを超える	
種 子 散 布	①3.0m以下	②3.0mを超える	

(注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。

4-4 コンクリート矢板工

コンクリート矢板を、施工する場合に適用する。

1) 数量算出項目

コンクリート矢板の延長、枚数を区分ごとに算出する。

表4-5 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	打込長	規格	単位	数量	備考
延長	○	○	m		
枚数	○	○	枚		

①打込長

コンクリート矢板の延長と枚数を打込長ごとに区分して算出する。
なお、打込長ごとに最大N値を明記する。

②規格区分

規格による区分は、下表のとおりとする。

規格区分
B=50cm
B=100cm

4-5 コンクリートブロック積（張）工

コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工に適用する。

1) 数量算出項目

コンクリートブロック積、コンクリートブロック張、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、遮水シート、吸出防止材（全面）設置、基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止の数量を区分ごとに算出する。

表4-6 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック積（ブロック質量150kg/個未満）

区 分 項 目	規格	構造	単位	数量	備 考
ブロック積	○	○	m ²		
胴込・裏込材	○	×	m ³		(注) 4
胴込・裏込コンクリート			m ³		(注) 5
鉄筋			t		
目地材			m ²		

- (注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配1割未満の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 胴込材の数量算出については、積算基準 標準歩掛 2. 共通工 ③コンクリートブロック積（張）工 表4. 1により算出すること。なお、裏込材については施工箇所ごとに別途算出すること。
 5. 胴込・裏込コンクリートの算出については、積算基準 標準歩掛 2. 共通工 ③コンクリートブロック積（張）工 表4. 3により算出すること。
 6. 吸出防止材及び水抜パイプの有無についても記載すること。

表4-7 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック張（ブロック規格 50cm×50cm以下）

区 分 項 目	規格	構造	単位	数量	備 考
ブロック張	○	○	m ²		
胴込・裏込材	○	×	m ³		
胴込・裏込コンクリート			m ³		
目地材			m ²		

- (注) 1. コンクリートブロック張工は、勾配1割以上の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 吸出防止材及び水抜パイプ及び目地モルタルの有無についても記載すること。

表4-8 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック積（ブロック質量150kg/個以上450kg/個以下）

項目	区分	ブロック規格	鉄筋規格	鉄筋10m ² 当り使用量	単位	数量	備考
コンクリートブロック積		○	○	○	m ²		

- (注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上450kg/個以下の場合である。
 2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

表4-9 数量算出項目区分一覧表 大型ブロック積（ブロック質量4,600kg/個以下 控え長500mm以上）

項目	区分	ブロック規格	水抜きパイプの有無	単位	数量	備考
大型ブロック積		○	○	m ²		

- (注) 1. 大型ブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長さ500mm以上の場合である。
 2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

表4-10 数量算出項目区分一覧表 間知ブロック張（ブロック質量770kg/個以下）

項目	区分	間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考
間知ブロック張		○	○	○	○	○	○	m ²		

- (注) 1. 間知ブロック張工は、法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。
 2. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 3. 間知ブロック張と遮水シート張りは、同施工面積とする。

表4-11 数量算出項目区分一覧表 平ブロック張（ブロック質量150kg/個以上770kg/個以下）

項目	区分	ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m ² 当り使用量	遮水シートの有無	吸出防止材の有無	連結金具の有無	連結金具10m ² 当り使用量	単位	数量	備考
平ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m ²		

- (注) 1. 平ブロックの張工（勾配1割以上、ブロック質量150kg/個以上770kg/個以下）の場合である。
 2. 平ブロック張と遮水シート張りは、同施工面積とする。
 3. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

表4-12 数量算出項目区分一覧表 連節ブロック張（ブロック質量770kg/個以下）

項目	区分	作業区分	ブロックの質量	連結鉄筋（鋼線）規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考
連節ブロック張		○	○	○	○	○	m ²		

- (注) 1. 連節ブロックの張工（勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下）の場合である。
 2. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
 3. 設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。

表4-13 数量算出項目区分一覧表 胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（碎石）、遮水シート張、吸出し防止材（全面）設置

項目	区分	ブロックの種類	生コンクリート規格	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考
胴込・裏込コンクリート		○	○	×	m ³		
胴込・裏込材（碎石）		○	×	○	m ³		
遮水シート張		×	×	×	m ²		
吸出し防止材（全面）設置		×	×	×	m ²		

- (注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

表4-14 数量算出項目区分一覧表 基礎コンクリート、天端コンクリート

項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考
基礎コンクリート		○	×	m		
天端コンクリート	m ³					
型枠	m ²					
目地材	m ²					
基礎碎石	m ²					

- (注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 2. 基礎コンクリートは体積（m³）も算出すること。

表4-15 数量算出項目区分一覧表 小口止コンクリート

項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考
小口止		○	×	m		
型枠	m ²					
目地材	m ²					
基礎碎石	m ²					

- (注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 2. 小口止は体積（m³）も算出すること。

①規格区分

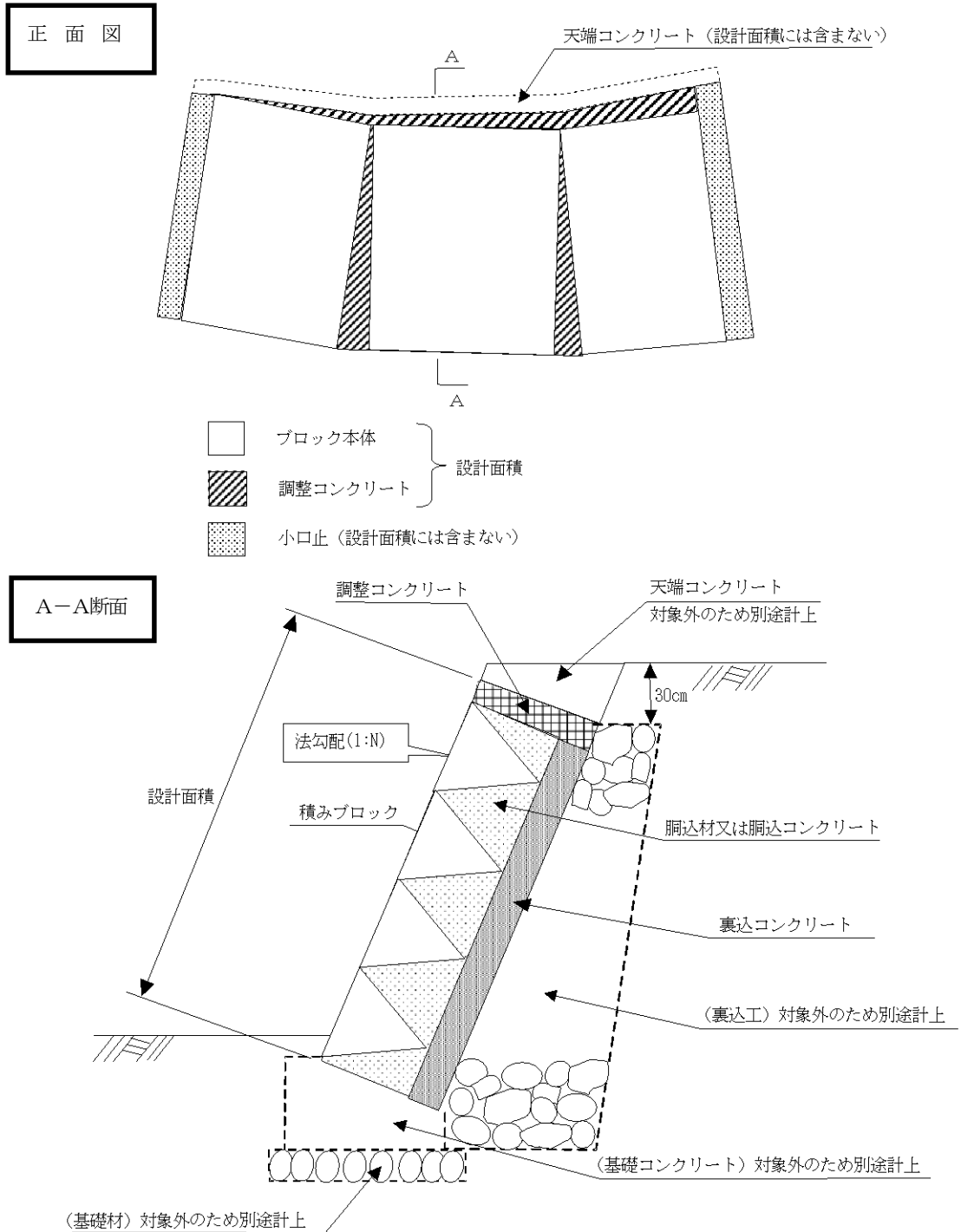
コンクリートブロック積、コンクリートブロック張は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。

基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。

②構造区分

空積（張）及び練積（張）に区分して算出する。

2) コンクリートブロック積工（ブロック質量 150 kg/個未満）の場合の参考図



※（小口止）対象外のため別途計上

4-6 擁壁工

(1) プレキャスト擁壁工

プレキャスト擁壁の設置に適用する。

1) 数量算出項目

プレキャスト擁壁の延長を区分ごとに算出する。

表4-16 数量算出項目区分一覧表

区 分		擁壁高さ	必要の有無	単位	数量	備 考
項 目						
プレキャスト擁壁		○	—	m	○	
基礎碎石	20cm 超え	×	—	m ²	○	(注) 3、4
	20cm 以下	×	○	—	×	(注) 3、4
均しコンクリート		×	○	m ²	×	(注) 3、4

- (注) 1. 製品を斜めにカットしたタイプの擁壁ブロックの高さは、中央値を採用する。
 2. 床掘、埋戻しは別途算出する。
 3. プレキャスト擁壁高さが0.5m以上5.0m以下の場合、基礎碎石、均しコンクリートについては、数量の算出は必要ないが、必要の有無は記載すること。
 4. プレキャスト擁壁高さが0.5m未満または5.0mを超える場合は、基礎碎石、均しコンクリート、敷モルタル、目地モルタル、排水材等その他必要な項目の数量を適正に算出すること。

① 擁壁高さ区分

プレキャスト擁壁高さによる区分は、下表のとおりとする。

擁壁高さ区分
0.5m以上1.0m以下
1.0mを超え2.0m以下
2.0mを超え3.5m以下
3.5mを超え5.0m以下

② 必要の有無

基礎碎石、均しコンクリートの有無について区分する。

(2) 補強土壁工

1. 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁）

補強土壁工（帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁）においてコンクリート製壁面材（帯鋼補強土壁工においては、薄型壁面材を含む）によるものに適用する。

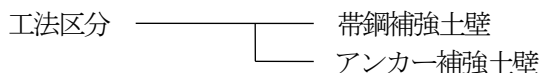
1) 数量算出項目

①補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材（材料費）、補強材取付、補強材（材料費）、まき出し・敷均し、締固めの数量を区分ごとに算出する。

表4-17 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	規格	工法区分	単位	数量	備考
補強土壁壁面材組立・設置		×	○	m ²		
補強土壁壁面材（材料費）		○	×	m ²		
補強材取付		×	○	m		
補強材（材料費）		○	×	m		
まき出し・敷均し、締固め		×	○	m ³		

②工法区分は、以下のとおりとする。



2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか、下表の方法によるものとする。

関連数量算出項目

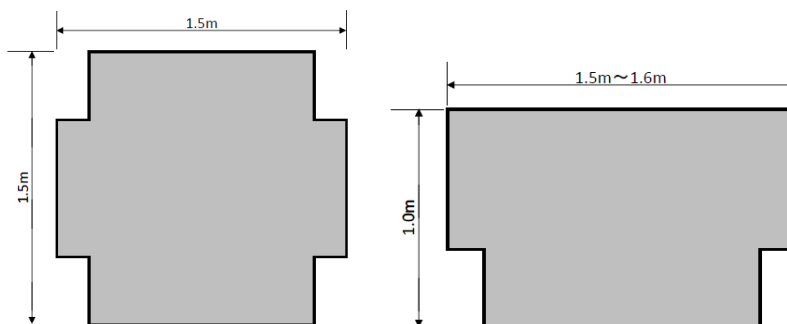
項目	区分	規格	単位	数量	備考
コンクリート（天端コンクリート部）		○	m ³		「第3章コンクリート工 3-2コンクリート工」参照
型枠（天端コンクリート部）		×	m ²		「第3章コンクリート工 3-3型枠工」参照
鉄筋工（天端コンクリート部）		○	t		「第3章コンクリート工 3-4鉄筋工」参照
足場		○	掛m ²		「第16章仮設工 16-7 鋼製足場」参照
暗渠排水管		○	m		「第9章道路工 9-4排水工」参照
フィルター材		○	m ³		「第9章道路工 9-4排水工」参照
コンクリート（補強土壁基礎部）		○	m ³		「第3章コンクリート工 3-2コンクリート工」参照
型枠（補強土壁基礎部）		×	m ²		「第3章コンクリート工 3-3型枠工」参照
基礎工（補強土壁基礎部）		○	m ²		「第3章コンクリート工 3-1基礎砕石工」参照

3) 参考図等

帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の標準仕様

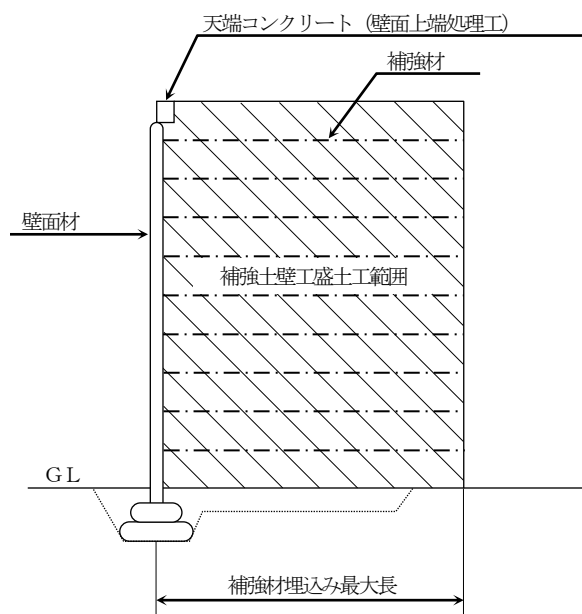
工 種	帯鋼補強土壁	アンカー補強土壁
標準壁面形状	十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ)	1.0m×1.5~1.6m (高さ×長さ)
補 強 材	ストリップ幅：60~80mm	規格：SS400、SS490
壁 面 材 強 度	コンクリート設計基準強度： 21~30N/mm ²	コンクリート設計基準強度： 30N/mm ² 、40N/mm ²
盛 土	1層仕上り厚さ：25cm	1層仕上り厚さ：25cm

各工種の標準壁面形状



帯鋼補強土壁正面図

アンカー補強土壁正面図



- (注) 1. 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、「第2章土工」により算出するものとする。
 2. 天端コンクリート等、壁面上端処理工の施工において足場を必要とする場合は、別途考慮するものとする。
 3. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
 4. 本施工パッケージは、壁面最上段部（ハーフ）、最下段部（ハーフ）、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用できる。

2. ジオテキスタイル工

ジオテキスタイル（ジオグリット、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。

ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土補強工法は適用外とする。

1) 数量算出項目

ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設、ジオテキスタイルまき出し・敷均し、締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

表4-18 数量算出項目区分一覧表

区 分 項 目	規格	壁面材種類	単位	数量	備考
ジオテキスタイル壁面材組立・設置	○	○	m ²		
ジオテキスタイル壁面材（材料費）	○	×	m ²		
ジオテキスタイル敷設	○	×	m ²		
ジオテキスタイルまき出し・敷均し・締固め	×	×	m ³		
ジオテキスタイル（材料費）	○	×	m ²		

(注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難しい場合については別途考慮する。

壁面材種類	規 格		備 考
	幅 (mm)	一層当りの施工高	
鋼製ユニット	2,000	500mm 以下	タイプA
	2,000	600mm 以下	タイプB
	1,000	600mm 以下	タイプC
	1,200	600mm 以下	タイプD

2. ジオテキスタイル工1段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用できる。

①壁面材種類区分

ジオテキスタイル壁面材組立・設置の壁面材種類には、以下のとおりである。

壁面材種類 : 鋼製ユニット

2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、鋼製ユニットは、直面積（壁高×施工延長）とする。〔(3)図、3)参考図(2)参照〕

(2) ジオテキスタイル壁面材（材料費）は規格ごとに壁面材面積当たりの鋼製ユニットの個数（個/m²）を算出する。〔3)参考図(1)参照〕

なお、施工方法別の数量算出項目及び壁面材の標準使用量は以下のとおりである。

①施工方法別の数量算出項目

適用 施工法 (工法)	壁面材 組立・設置	ジオテキスタイル敷設 まき出し・敷均し、締固め	標準図
鋼製ユニット工法	○	○	3) 参考図 (1) 図A
巻込み工法 (壁面材なし)	×	○	3) 参考図 (1) 図B
普通敷設工法 (壁面材なし)	×	○	3) 参考図 (1) 図C

②鋼製ユニット標準使用量

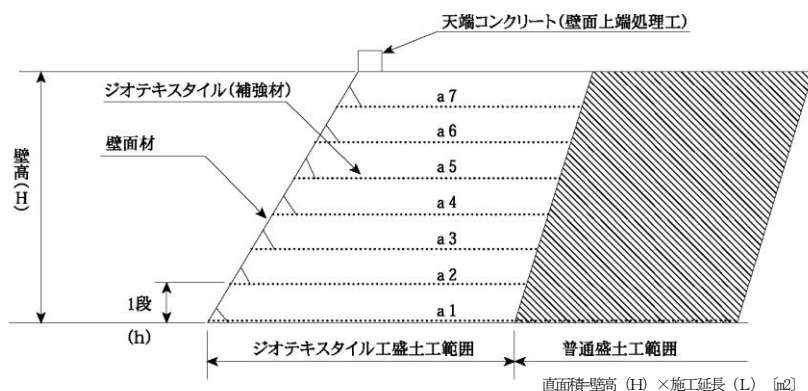
(直面積 100 m² 当り)

壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500mm 以下	個	100	3) 参考図 (1) 図A
	タイプB	600mm 以下		83	
	タイプC	600mm 以下		167	
	タイプD	600mm 以下		139	

(直面積 1 m² 当り)

壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500mm 以下	個	1.00	3) 参考図 (1) 図A
	タイプB	600mm 以下		0.83	
	タイプC	600mm 以下		1.67	
	タイプD	600mm 以下		1.39	

- (3) ジオテキスタイル敷設の施工量は、ジオテキスタイル敷設面積を計上し、算出については下図及び次式による。

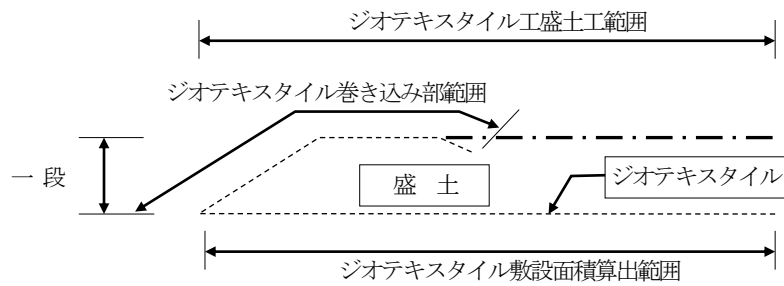


- (注) 1. ジオテキスタイルの敷設面積については、次式のとおりとする。

$$\text{ジオテキスタイル敷設面積 (m}^2\text{)} = a_1 + a_2 + a_3 + \dots$$

$$a_1, a_2, a_3 \dots \text{ジオテキスタイル工一段当り敷設面積 (m}^2\text{)}$$

2. ジオテキスタイル一段当り敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、一段当りの底面積を算出するものとし、壁面補強材の面積も含み、巻き込み面積は含まないものとする。



3. ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、第2章土工により算出するものとする。
4. ジオテキスタイル（材料費）は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積（ m^2 ）を規格ごとに算出する。
5. 盛土材においては、一層当りの施工高を記載する。
6. コンクリートブロック積が必要な場合は別途計上する。
7. ジオテキスタイル盛土工範囲の盛土材については、必要に応じて別途計上する。
8. 現場発生土の粒径処理等が必要な場合は、別途計上する。

3) 参考図

(1) 施工法別参考図

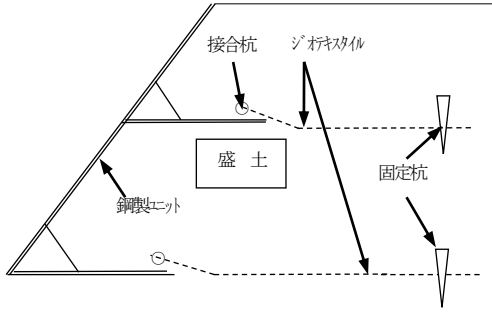


図 A 鋼製ユニット工法参考図

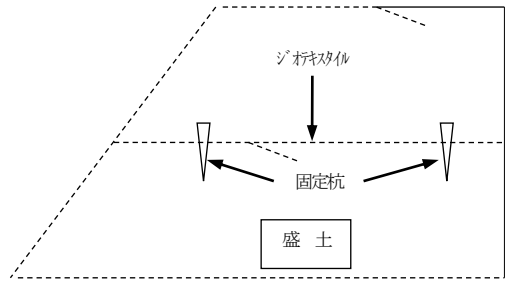


図 B 巻き込み工法（壁面材なし）参考図

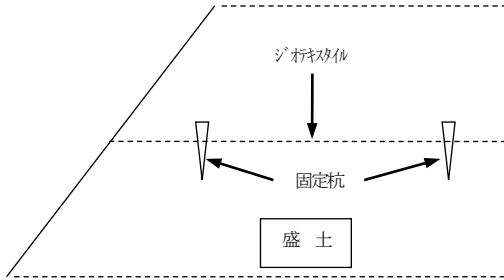
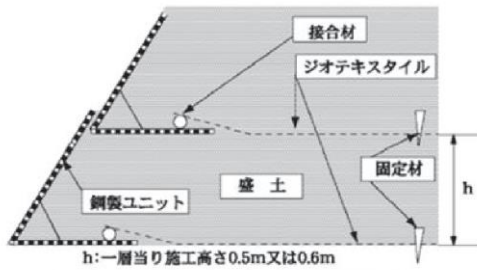


図 C 普通敷設工法（壁面材なし）参考図

(2) 施工数量標準図



図① 鋼製ユニット施工数量標準図

4-7 構造物とりこわし工

(1) 構造物とりこわし工

土木工事におけるコンクリート構造物等のとりこわし工に適用する。
ただし、建築物及び舗装版のとりこわし工には適用しない。

1) 数量算出項目

コンクリート構造物等のとりこわしの数量を区分ごとに算出する。

2) 区分

石積とりこわしとコンクリートはつりの区分は、種別、形状とする。

吹付法面とりこわしの区分は、種別、形状、集積積込の有無とする。

表4-19 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	種別	形状	集積積込の有無	単位	数量	備考
コンクリート 構造物とりこわし		無筋構造物	—	—	m ³		(注) 4, 5, 6
		鉄筋構造物	—	—	m ³		(注) 4, 5, 6
石積 とりこわし	練積		控 35 cm以上 45 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
			控 25 cm以上 60 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
	空積		控 45 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
			控 45 cm以上 60 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
			控 60 cm以上 90 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
			控 20 cm以上 60 cm未満	—	(m ³) m ²	()	
コンクリート はつり	コンクリート 構造物	厚さ 3 cm以下	—	(m ³) m ²	()		
		厚さ 3 cmを超え 6 cm以下	—	(m ³) m ²	()		
吹付法面 とりこわし		モルタル	厚さ 5 cm以上 15 cm以下	○	(m ³) m ²	()	人力施工と機械 施工に区分し数 量を算出する。

- (注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。
 2. C o塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出する。
 3. とりこわし数量 (m³) については、とりこわす前の数量とする。
 4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版のとりこわしは、コンクリート構造物とりこわしの鉄筋構造物を適用する。
 5. コンクリート構造物とりこわしにおいて、施工基面 (機械設置基面) より上下 5 m を超える場合については、区分して算出する。
 6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは、無筋構造物とする。
 7. 人力とりこわしと機械とりこわしに区分し算出する。

(2) 骨材再生工

自走式破砕機によるコンクリート殻（鉄筋有無）の破砕作業で骨材粒度0～40mmの骨材再生工（自走式）に適用する。

1) 数量算出項目

骨材再生の数量を区分ごとに算出する。

表4-20 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
骨材再生工	○	m ³		

- (注) 1. 骨材再生工は、破砕前の殻処理量を規格（殻投入寸法600mm以下、600mm超え）ごとに区分して算出する。
2. 骨材再生により、鉄屑が発生する場合は、鉄屑質量（t）を算出する。
3. 計上数量は、取壊し前の構造物の状態に相当する容積とする。

4-8 ネットフェンス設置・撤去工

(1) ネットフェンス設置工

ネットフェンスの設置に適用する。

1) 数量算出項目

ネットフェンス本体、ネットフェンス門扉の設置数量を区分ごとに算出する。

表4-21 数量算出項目区分一覧表

区 分 項 目	柵高	規格	材料	支柱 間隔	基礎 型式	単位	数量	備 考
ネットフェンス工 (本体)	○	○	○	○	○	m		
ネットフェンス工 (扉)	○	○	○	×	×	組		

(注) 構造物設置の場合の箱抜き又は、アンカーブロック基礎の場合の床掘、埋戻しは別途算出する。

① 柵高、規格区分

「ネットフェンス工 (本体)」の柵高、規格による区分は、下表のとおりとする。

柵高区分	規格区分
1. 0m	A-I型
1. 2m	A-II型
	B-I型
1. 5m	A-III型
	A-IV型
	B-II型
	B-III型

「ネットフェンス工 (扉)」の柵高、規格による区分は、下表のとおりとする。

柵高区分
1. 0m
1. 2m
1. 5m

規格区分
ネット式片開
ネット式両開
格子式片開
格子式両開

② 材料区分

材料による区分は、下表のとおりとする。

材料区分
ビニル被覆製
亜鉛メッキ製
メッキ着色塗装製

(注) 格子式片開及び格子式両開の場合は、材料による区分は行わない。

③ 支柱間隔区分

支柱間隔による区分は、下表のとおりとする。

支柱間隔区分
1. 2m
1. 5m
1. 8m
2. 0m

④ 基礎型式区分

基礎型式による区分は、下表のとおりとする。

基礎型式区分
構造物設置
アンカーブロック設置

2) 参考図

柵高、規格、支柱間隔等は「土地改良工事積算基準（土木工事）2. 共通工 ②ネットフェンス工
4. 参考図」を参考とする。

(2) ネットフェンス撤去工

ネットフェンスの撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長または必要箇所を区分ごとに算出する。

表4-22 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	柵高	規格	基礎状況	処分方法	単位	数量	備考
撤去(本体)	○	○	○	○	m		
撤去(扉)	×	○	×	○	組		

① 柵高、規格、基礎状況区分

柵高、規格、基礎状況は、下表で区分する。

項目	柵高	規格	基礎状況
撤去(本体)	1.0m	A-I型	構造物
			アンカーブロック
	1.2m	A-II型	構造物
			アンカーブロック
	1.5m	B-I型	アンカーブロック
			構造物
		A-III型	アンカーブロック
			構造物
A-IV型	アンカーブロック		
	構造物		
B-II型	アンカーブロック		
	B-III型	アンカーブロック	

項目	規格
撤去(扉)	ネット式片開
	ネット式両開
	格子式片開
	格子式両開

① 材料処分方法区分

材料処分方法は下表で区分する。

処分方法
廃棄
再利用

4-9 かご工

地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設におけるかご工を除くかご工のうち、じゃかご（径 45, 60cm）、ふとんかご（パネル式、高さ 40~60cm、幅 120cm）の施工に適用する。

1) 数量算出項目

じゃかご、ふとんかご等の数量を区分ごとに算出する。

表 4-23 数量算出項目区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	作業区分	規格			
じゃかご	○	○	m		長さは総延長を記入
ふとんかご	○	○	m		〃
止杭打込	×	×	本		必要に応じて

(注) 1. じゃかご及びふとんかごについては、総延長を上記区分ごとに算出する。

なお、じゃかごにおいて止杭を使用する場合は、必要本数を算出する。

2. 止杭打込は、1本当たり松丸太末口 9cm、長さ 1.5m を標準とする。

① 作業区分

設置、撤去に区分して算出する。

② 規格区分

じゃかごについては、径、鉄線の規格（線径、網目、材料等）ごとに区分し、ふとんかごについては、ふとんかご種別（スロープ式、階段式）、高さ、幅、鉄線の規格ごとに区分して算出する。

なお、曲線部の施工等で特別製作するものは、別途区分して算出する。

4-10 アンカー工

ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、引張鋼材にてアンカーを施工し、長期に供用するものに適用する。

1) 数量算出項目

削孔（アンカー）、アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理（アンカー）、グラウト注入（アンカー）、ボーリングマシン移設（アンカー）、足場工（アンカー）を区分ごとに算出する。

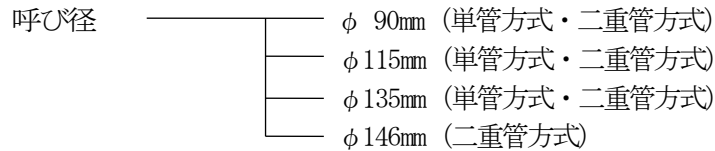
区分は、足場工の有無、方式、呼び径、土質、防食方式、アンカー鋼材、削孔長、設計荷重、頭部処理の有無とする

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分											単位	数量	備考
	足場工の有無	方式	呼び径	土質	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無					
削孔 (アンカー)	○	○	○	○								m		
アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理（アンカー）					○	○	○	○	○			本		

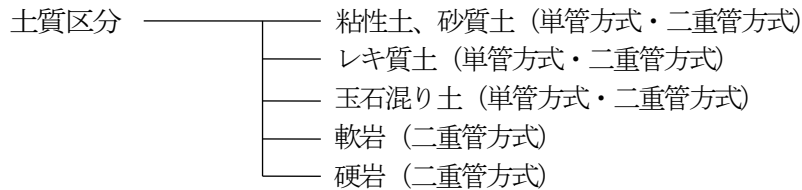
(2) 呼び径区分

呼び径による区分は、以下のとおりとする。呼び径とは、ドリルパイプ外径（mm）をいう。



(3) 土質区分

土質区分は、以下のとおりとする。

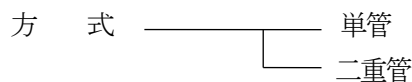


注) 1. 硬岩は、コンクリートを含む。

2. 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管削孔を標準とする。

(4) 方式

方式は、以下のとおりとする。



注) 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管削孔を標準とする。

2) 数量算出方法

数量の算出は、「第1章 適用範囲及び共通事項」によるほか下記の方法によるものとする。

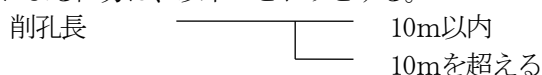
(1) アンカーの内訳は下記の項目で算出する。

項 目 \ 区 分	規 格	単 位	数 量	備 考
ア ン ー カ ー 鋼 材	○	m		
注 入 パ イ プ	○	m		
シ ー ス	○	m		
防 錆 材	○	kg		
定 着 加 工 用 具	○	組		パイロットキャップ スペーサ等
ア ン ー カ ー 定 着 具	○	組		アンカーヘッド、プレート、 クサビ等
グ ラ ウ ト	○	m ³		
足 場	○	空m ³		

(注) 数量は、必要量（ロスを含む）を算出すること。

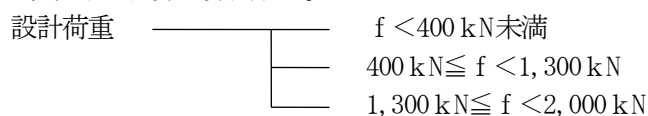
(2) 削孔長区分

削孔長による区分は、以下のとおりとする。



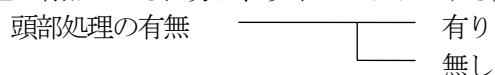
(3) 設計荷重区分

設計荷重は、以下の区分で算出する。



(4) 頭部処理の有無区分

頭部処理の有無による区分は、以下のとおりとする。



(5) 足場

足場は、施工場所が既設の構造物（斜面）等で必要な場所に計上する。

また、作業面の足場幅は、4.5mを標準とする。

(6) グラウト

グラウトの使用量

グラウトの使用量は、次式を参考とし、材料の補正（ロス）を含んだ数量を算出する。

$$V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$$

V：注入量（m³）

D：ドリルパイプの外形（mm）

L：削孔長（m）

K：補正係数

(注) 補正係数は 2.2 を標準とするが、過去の実績や地質条件等により本係数を使用することが不適当な場合は、別途考慮すること。